「チーム学校」を理解するために
実践編Ⅱ　その①　概要編

-関係機関との連携と虐待通告後の支援を考える-

愛知教育大学　教職キャリアセンター教育支援専門職研究部門 制作

安藤久美子（心理講座）　岩山絵理（福祉講座）　杉原里子（スクールソーシャルワーカー）

2024

本教材の構成

- この教材は3本の視聴教材から構成されています。

①概要編 （約11分）

本教材のねらいを説明します。

②模擬事例編 （約27分）

模擬事例の情報から虐待通告までの個別ワーク①、および
通告後の支援についてワーク②を行います。

③解説編（約9分）

ネットワーク型支援について解説します。

本教材は3本の視聴教材から構成されています。
1本目は概要編、2本目は模擬事例編、3本目は解説編となっています。
順番にご視聴ください。

はじめに

・2022年度スクールリーダー研修公開講座
「チーム学校を理解するために―困難を抱える子どもたちの支援について―（基礎編）」

・2023年度スクールリーダー研修公開講座
「チーム学校を理解するために―校内での連携と生徒支援を考える―（実践編Ⅰ）」

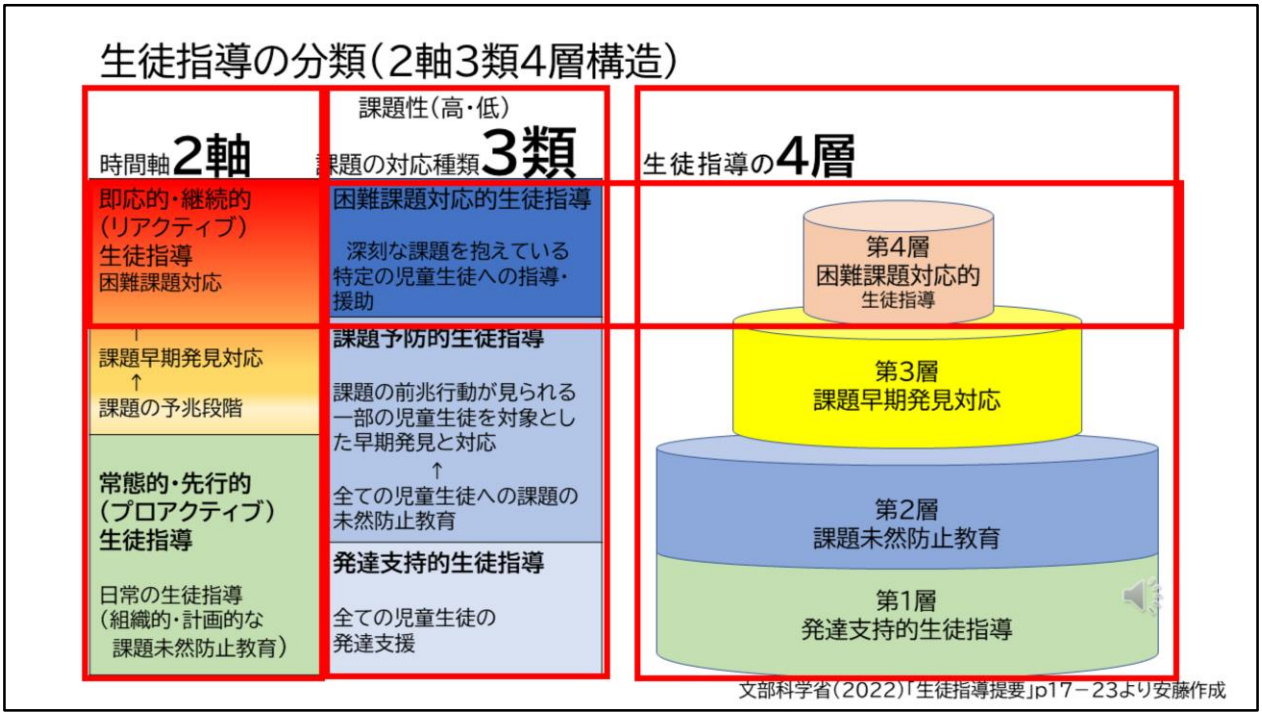
・2024年度スクールリーダー研修公開講座
「チーム学校を理解するために―関係機関との連携と虐待通告後の支援を考える―（実践編Ⅱ）

※基礎編、実践編Ⅰは教職キャリアセンター　教育支援研究職部門ホームページから視聴できます

これまで教育支援専門職研究部門では、スクールリーダー研修として「チーム学校を理解するために」と題し、「困難を抱える子どもたちの支援について（基礎編）」、
「校内での連携と生徒支援を考える（実践編Ⅰ）」の2本を配信してきました。
これに続き今年度は、「関係機関との連携と虐待通告後の支援を考える」をテーマに講義します。

基礎編と実践編Ⅰは愛知教育大学ホームページの中の教職キャリアセンター、教育支援専門職研究部門にて動画とノートスライド、資料を公開しています。
校内研修等にご使用いただけますと幸いです。

実践編Ⅰと同様に実践編Ⅱは、文部科学省が2022年に出した生徒指導提要に基づき説明をしていきます。
生徒指導の分類やチーム支援の形態やプロセスを簡単に説明してから模擬事例へと進んでいきます。



生徒指導提要において、生徒指導は、児童生徒の課題への対応を時間軸や対象、課題性の高低という観点から類別することで、構造化することができるとされています。

時間軸に着目すると、課題が見える前から日常的・先行的に行う生徒指導と課題の予兆が見え始めた生徒や困難な状況に陥っている生徒を対象として即応的・継続的に行う生徒指導の2軸になります。

課題性の高低に着目すると、全ての児童生徒を対象とする、発達支持的生徒指導と予防的な支援が求められる課題予防的生徒指導、深刻な課題を抱える生徒を対象とする困難課題対応的生徒指導の3類になります。

対象となる児童生徒の範囲に着目すると、全ての児童生徒を対象とする第1層の発達支持的生徒指導、第2層の課題未然防止教育、課題の前兆行動が見られる一部の生徒を対象とする第3層の課題早期発見対応、困難な状況にある特定の児童生徒を対象とする第4層困難課題対応的生徒指導の4層に分類されます。

この実践編では、深刻な課題を抱えている特定の児童生徒を対象に即応的・継続的な支援が求められる第4層困難課題対応的生徒指導に含まれるケースを扱います。

チーム支援の形態とプロセス(p88～96)

今回は「ネットワーク型支援チーム」による
支援のプロセスを学びます(p89～90)

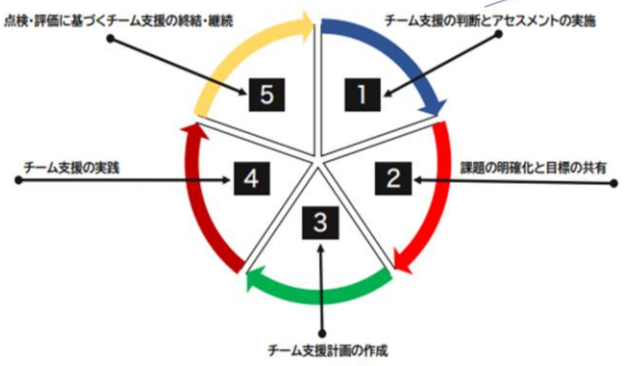


図5　チーム支援のプロセス
(困難課題対応的生徒指導及び課題早期発見対応の場合)

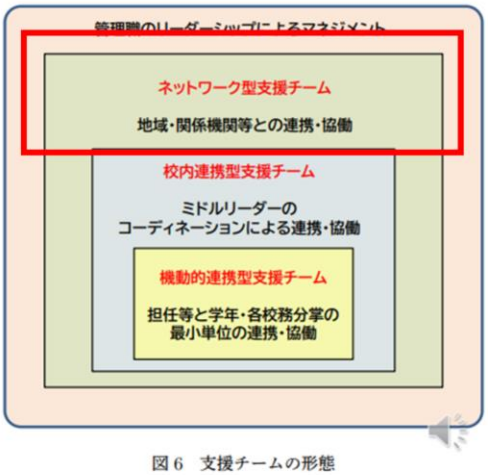


図6　支援チームの形態

文部科学省(2022)「生徒指導提要」p92

生徒指導提要では、生徒指導と教育相談の連携を核に、多職種との協働も視野に入れた包括的な支援をチームとして展開するプロセスが示されています。チーム支援のプロセスは先に紹介した4層構造に応じて2つのパターンが示されています。

今回の事例では第4層を扱いますので、第4層の困難課題対応的生徒指導を含むプロセスとして示される図5を用いて説明します。

プロセス1はチーム支援の判断とアセスメントの実施です。児童生徒の課題解決に向けて、子どもの理解を深めるために、関係する教職員やSCやSSWが参加するケース会議を開催します。

プロセス2の課題の明確化と目標の共有では、課題を明確化し、具体的な目標(方針)を共有した上で、それぞれの専門性や持ち味を生かした役割分担を行います。

プロセス3のチーム支援計画の作成では、アセスメントに基づいて、問題解決のための具体的なチームによる指導・援助の計画を作成します。

プロセス4ではチーム支援計画に基づいて、チームによる指導・援助を組織的に

実施します。実施する際の留意点としては、チームによる定期的なケース会議の開催、関係者間の情報共有と記録保持、管理者への報告・連絡・相談が挙げられています。

プロセス5では、チーム支援計画で設定した長期的、短期的な目標の達成状況について総括的な評価を行います。目標が達成した場合、支援は終結となります。達成していない場合は改めてアセスメントを行い、支援計画の見直しをしたうえで実施していくことになります。

「チーム支援計画」を作成し、支援目標を達成するために支援チームを編成します。どのチームも管理職のリーダーシップによるマネジメントが必要です。
今回の模擬事例は第4層の困難課題対応的生徒指導に当たるので、ネットワーク型支援チームが必要です。

ネットワーク型支援チームとは、地域・関係機関等を含めて連携・協働するチームです。詳しくは生徒指導提要の92ページをご覧ください。

ネットワーク型支援チームが必要な時

◆子どもや家族を取り巻く環境の課題が多い。
◆子どもの力だけでは、どうしようもない。子どもだけに働きかけても解決できない。
◆学校だけでは解決できない

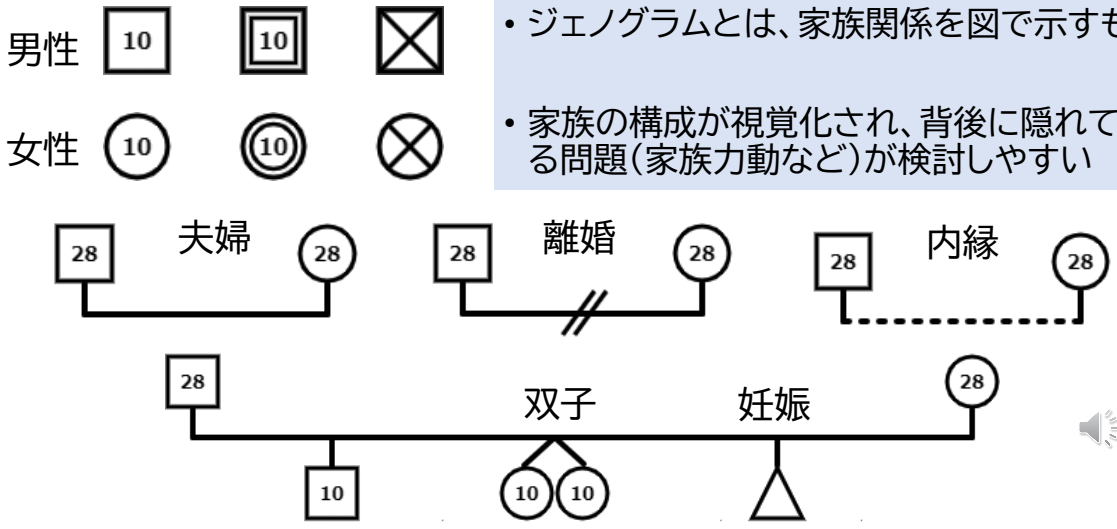
学校外の機関や人との連携が必要（ネットワーク型支援チーム）

ジェノグラムや**エコマップ**を活用し
困難課題の多い家族の児童支援について考える

ネットワーク型支援チームによる対応が必要な家庭は多くの問題が複雑に重なり合っていることがあります。いわゆる多問題家族です。
子どもや家族を取り巻く環境の課題が多く、子どもの力だけではどうしようもなく、子どもだけに働きかけても解決できない、学校だけでは解決できない場合は、学校の外の専門機関や関係する人との連携が必要になります。

今回の模擬事例では、ジェノグラムやエコマップを活用し困難課題の多い家族の支援について可視化して考えます。

多問題家族の問題整理　ジェノグラム



- ジェノグラムとは、家族関係を図で示すもの
- 家族の構成が視覚化され、背後に隠れている問題（家族力動など）が検討しやすい

ジェノグラムとエコマップについて、もう少し詳しく説明していきます。

家庭環境が子どもにどのような影響を与えているのか、家族それぞれの困難さを理解しどのような支援が必要なのかを検討するためには、マッピング技法の一つであるジェノグラムやエコマップを使って問題整理をすると分かりやすいです。

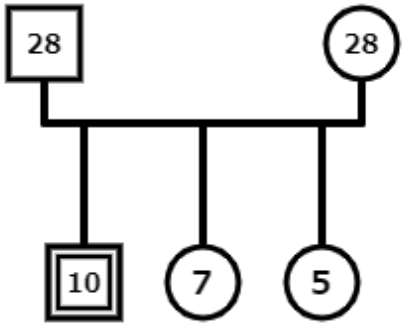
ジェノグラムは家族関係を図で示すものです。
ジェノグラムを活用することで家族の構成が視覚化され、背後に隠れている問題が検討しやすくなります。

ジェノグラムは、男性を□、女性を〇で表記します。中の数字は年齢です。支援の対象者は二重の四角や丸で表現します。また死亡している場合は×で示します。

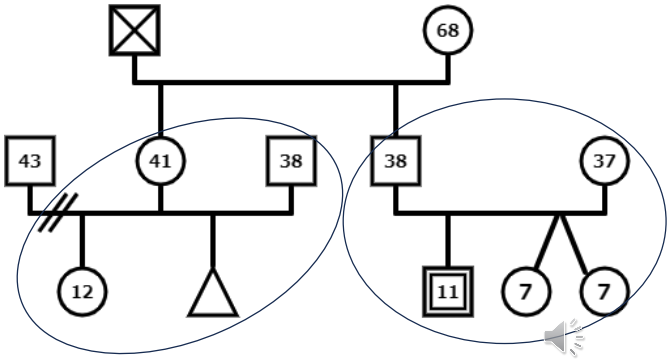
夫婦は横の線でつなぎます。離婚や内縁などの表記もあります。
二人の間の子どもはその下に書きます。子どもは双子や妊娠中などの様々な表記があります。

このように記号を使って、家族構成を示す図がジェノグラムです。

ジェノグラムの例



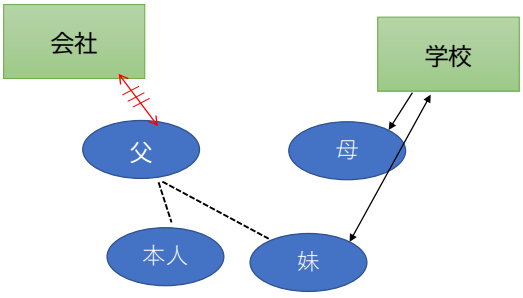
1世代の例



3世代の例

ジェノグラムは完成するとスライドのようになります。左が1世代の場合、右が3世代の場合です。同居家族は丸で囲みます。
このように記号で表すことで家族の状況が可視化され理解しやすくなります。

多問題家族の問題整理　エコマップ



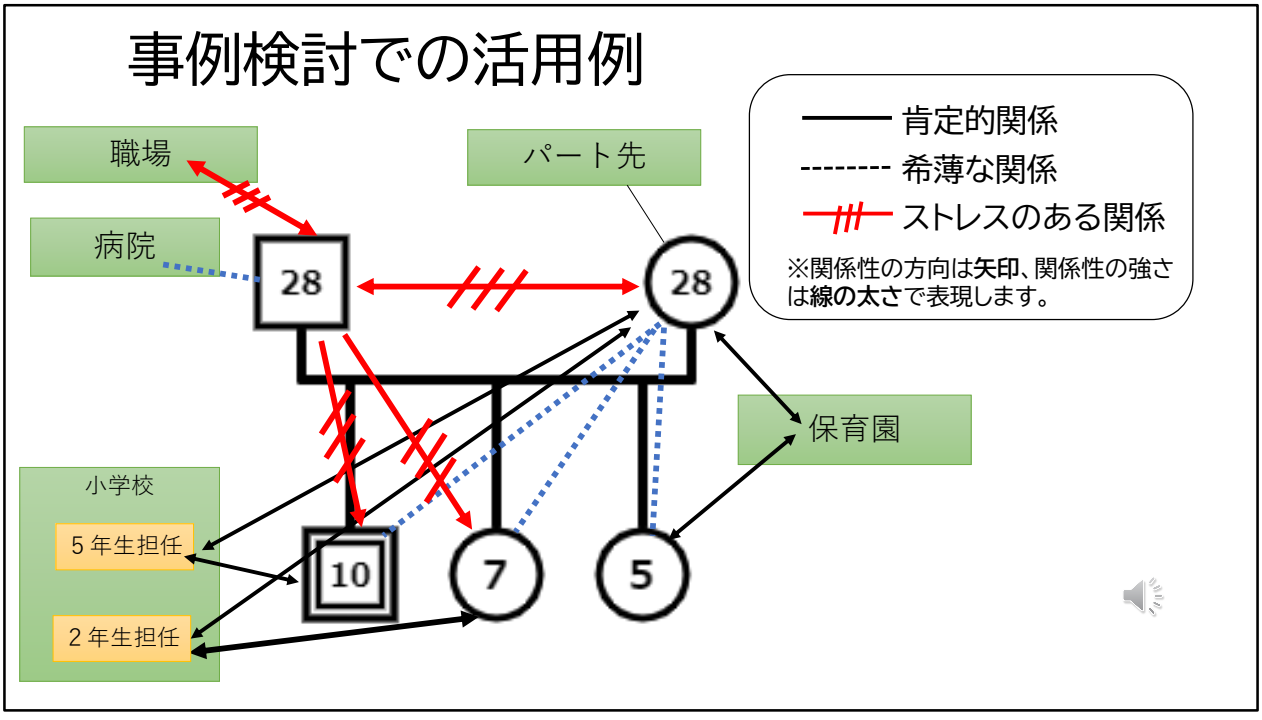
- エコマップは、個人と社会との繋がりを示すもの
- 家族各々の関係性や抱える問題が視覚化され、その支援策を検討しやすい

肯定的関係
希薄な関係
ストレスのある関係

※関係性の方向は**矢印**、関係性の強さは**線の太さ**で表現します。

エコマップは、個人と社会との繋がりを示すものです。
例えば、家族や友人、知人、親族といった人とのつながりや、学校や病院、会社、子育て支援センター、習い事先など社会とのつながりを可視化するマッピング技法です。
家族それぞれの関係性や抱える問題が視覚化され、その支援策を検討しやすくなります。

エコマップでは、肯定的な関係を直線で、希薄な関係は点線で、ストレスのある関係性は斜線の入った線で表します。
関係性の方向は矢印で関係性の強さは線の太さで表現し、関係が強いほど太い線で表します。



学校現場では、ジェノグラムにそれぞれの社会との関係性を書き加える形でエコマップを活用すると分かりやすいです。

この例は夫婦と子ども3人の例ですが夫婦関係にストレスがあり、父と小学生2人の間にもストレスがある関係を示しています。
父は受診しましたが通院は継続できていないことを希薄な関係として示しています。

このように、家族それぞれの関係性、関係性から生じるストレス、社会との関係性を視覚化することで、子どもと子どもを取り巻く環境の全体像を捉えた支援が検討しやすくなります。

模擬事例検討では、この方法を活用した情報整理をして、支援を検討します。

この授業のねらい

- 困難課題対応的生徒指導の層に該当する子どもについて、ネットワーク型支援チームによる連携について理解する。
- 虐待が疑われる模擬事例を通して、多問題家族の問題整理とそのような環境で育つ子どもの理解について学ぶ。
- 学校の虐待対応を確認する

それでは、改めて、本講義のねらいについて説明します。

この実践編Ⅱのねらいは3つあります。

1つ目は、困難課題対応的生徒指導の層に該当する子どもについて、ネットワーク型支援チームによる連携について理解すること。

2つ目は、虐待が疑われる模擬事例を通して、多問題家族の問題整理とそのような環境で育つ子どもの理解について学ぶことです。

3つ目は学校の虐待対応を確認することです。

これで概要編は終わりです

- 模擬事例編では、ワークシート等を使用しますので、お手元にご準備ください。

【準備するもの】
1. 情報シート
2. ワークシート
3. 資料1（文部科学省研修教材「児童虐待防止と学校」 モジュール3 学校生活での現れ）

※ジェノグラムについて詳細に知りたい方は以下の資料を参照してください（配布の文献リスト参照）
（本教材への引用許可済み、視聴は無料の動画教材です）
子どもの虹情報研修センター ミニ講座2 「ジェノグラム」ー描き方と活用のコツー

https://www.crc-japan.net/course/%e3%83%9f%e3%83%8b%e8%ac%9b%e5%ba%a7%ef%bc%92/

これで、概要編は終わりです。
次の模擬事例編では、情報シートとワークシート1と2、
資料1と2を使用しますので、お手元にご準備のうえ、次の動画をご視聴ください。

ジェノグラムについて詳細に知りたい方は、子どもの虹情報研修センターの中の、
ミニ講座2を閲覧すると、無料の動画で「ジェノグラム」-書き方と活用のコツ―が
視聴できます。
資料も印刷できますので、そちらを参照してください。